

アイヌ民族文化研究センターだより NO.34

2011年3月

●もくじ

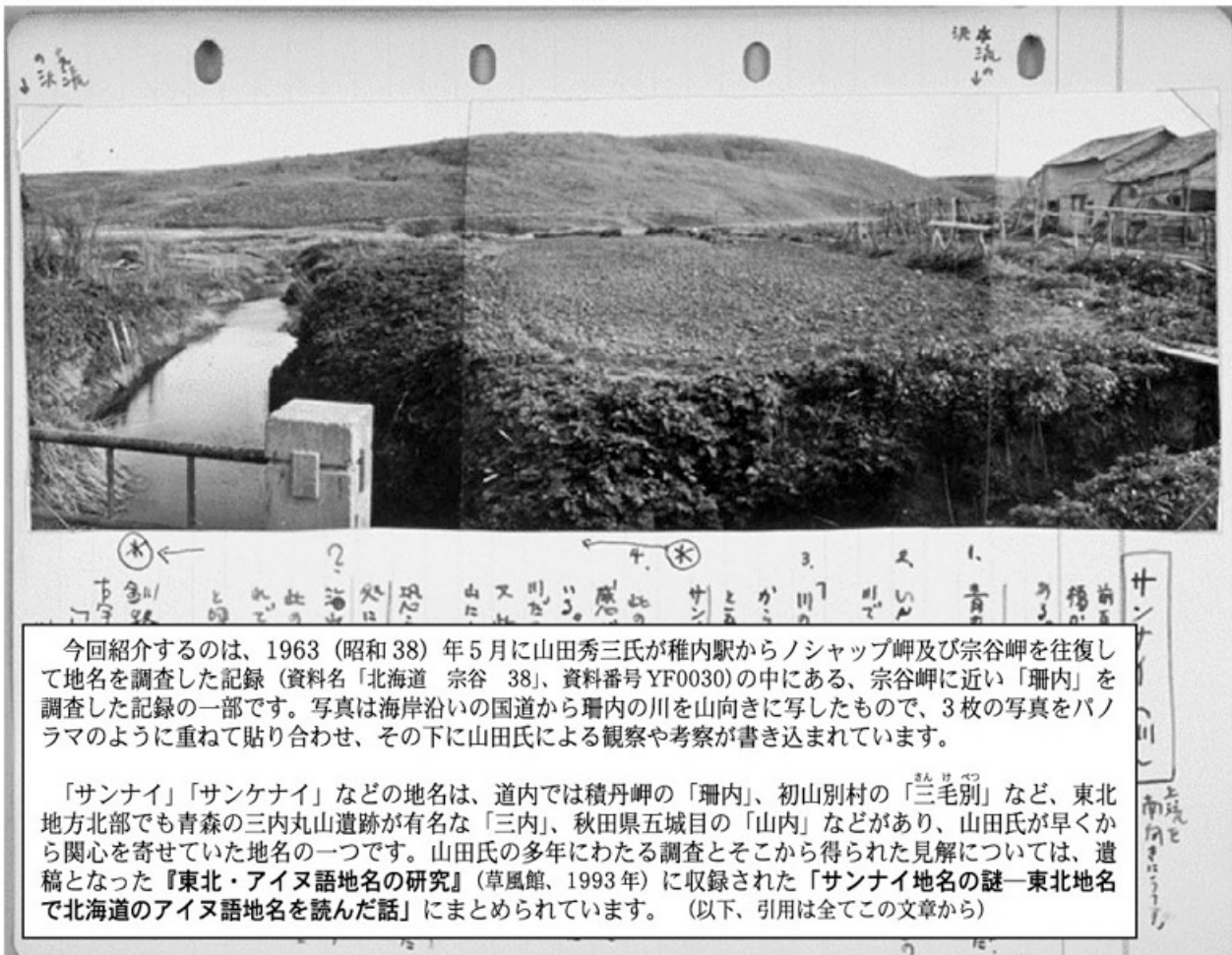
- ・山田秀三文庫の資料から 稚内・宗谷岬の「珊内」……………1
- ・平成23年度企画展のお知らせ……………2
- ・平成23年度から公開する資料について……………2
- ・フィールドからデスクから
「伝統ポリフォニー国際シンポジウム」に参加して……………4
- ・寄贈を受けた資料……………6
- ・お知らせ……………8

[企画展(共催)]

アイヌ語地名を歩く

—山田秀三の地名研究から—
を開催します! 9月17日～ 稚内市
11月19日～ 名寄市
詳しくは2ページ及び8ページをご覧ください。

山田秀三文庫の資料から 稚内・宗谷岬の「珊内」 (YF0030)



今回紹介するのは、1963(昭和38)年5月に山田秀三氏が稚内駅からノシャップ岬及び宗谷岬を往復して地名を調査した記録(資料名「北海道 宗谷 38」、資料番号 YF0030)の中にある、宗谷岬に近い「珊内」を調査した記録の一部です。写真は海岸沿いの国道から珊内の川を山向きに写したもので、3枚の写真をパノラマのように重ねて貼り合わせ、その下に山田氏による観察や考察が書き込まれています。

「サンナイ」「サンケナイ」などの地名は、道内では積丹岬の「珊内」、初山別村の「三毛別」など、東北地方北部でも青森の三内丸山遺跡が有名な「三内」、秋田県五城目の「山内」などがあり、山田氏が早くから関心を寄せていた地名の一つです。山田氏の多年にわたる調査とそこから得られた見解については、遺稿となった『東北・アイヌ語地名の研究』(草風館、1993年)に収録された「サンナイ地名の謎—東北地名で北海道のアイヌ語地名を読んだ話」にまとめられています。(以下、引用は全てこの文章から)

山田氏は、東北北部にある「山内」「三内」などの地名について「初めは日本語のつもりでいたが、歩いて見るとそれではどうも分らない。だがそれらはアイヌ語型のナイ(内)地名の多い土地の中にあるので、少くとも北方にあるこれらの山内、三内はアイヌ語じゃないかと考えるようになった」といいます。

山田氏は「従来下る川と直訳されて来たが何が下るのか、それだけでは何のことか見当もつかない」と、それまでの地名解に疑問を示します。サンナイのナイ(nay)はアイヌ語で一般に沢や川を意味し、サン(san)は「下る」「(水が)流れる」「山手から浜手へ下りる」「前へ出る」といった意味があるとされていますが、山田氏は「川上から何かが出る(下る)川」となるのだが、何が出るのか分らない。初めは川筋の人がコタン(部落)から浜に出て行く川かとも思ったが、そう読む根拠もない。水ならどの川でも流れ出ているのでどうも変だ」と、簡単に結論を出すことなく、どんどん考えを進めていきます。

そして、山田氏の地名調査の特色でもある、「できるだけ同名の地名を調べて並べた上、できるだけその現地に行ってその特徴を眺め、どこにそれらの共通点があるかを探ること」を長年にわたって続けます。こうして山田氏は、調べた川のほとんどでは「どれも春の雪融け時や、秋の長雨時に大増水がどつと流れ出して洪水の名所だったとか鉄砲水が出るとかの、特別の川だった。(中略)大増水がどつと出る特別な川であったのでサンナイ、サンケナイと呼ばれたのだと見てよいのではなかろうか」という考え方に辿り着きます。

とはいえ、この宗谷の珊内については、「小川だから大水にはならない」との話を伝え聞いて「もう少し調べないといとも云えない」と、慎重に留保を付けています。

山田氏はこの文章を、「長い間の謎が、やっと或程度は解けたらしいのでホッとしたのであった」と結んでいます。

※この資料は、研究センターで閲覧することができます。また、9月から稚内市で開催予定の企画展(→2ページ・8ページ)でも展示する予定です。

企画展(共催)

「アイヌ語地名を歩く ―山田秀三の地名研究から―」 今年は稚内市と名寄市で開催します

当研究センターでは、平成16年度から毎年度、企画展を道内各地で開催しています。

平成23年度は、標記のテーマのもと、当研究センターが所蔵するアイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三氏の研究資料の紹介を中心とした展示を、稚内市（稚内市立図書館及び稚内市北方記念館）と名寄市（名寄市北国博物館）で開催します。

展示では、これまでと同様に、開催地である稚内市と名寄市それぞれの地域に関連する、山田氏の地名調査資料を中心に紹介します。また稚内市では、サハリン（樺太）とのゆかりが深い地域であることから、当研究センターが所蔵する、アイヌ語・アイヌ文化研究者である久保寺逸彦氏によるサハリンでの調査記録なども紹介する予定です。名寄市では、名寄周辺ばかりでなく、天塩川や名寄盆地周辺の地名調査資料なども紹介する予定です。

展示期間中にはアイヌ語地名やアイヌ文化に関する講演会も開催いたします。

詳しい日程などは、決まり次第、当研究センターのホームページに掲載するほか、チラシ・ポスター等を通してお知らせいたします。

多くの皆様のご来場をお待ちしています。

◆稚内市

●稚内市立図書館（稚内市大黒4丁目1-1）
9月16日（金）～10月16日（日）

●稚内市北方記念館（稚内市ヤムワッカナイ）
9月17日（土）～10月30日（日）
※同館の入館料が必要です。

◆名寄市

●名寄市北国博物館（名寄市緑丘222）
11月19日（土）～12月25日（日）

※8ページのお知らせもご覧ください。

平成23年度から公開する資料について

平成23年度から新たに公開する資料についてお知らせします。資料の一覧は、次ページのとおりです。

■研究センター 音声資料

当研究センターの職員が各地の伝承者・体験者等から採録した資料や、寄贈や複写による資料を公開しています。平成23年度からは、門別町（現・日高町）・平取町・三石町（現・新ひだか町）などで採録した資料計15点を新たに公開します。

■山田秀三文庫 音声資料

平成20年度までにアイヌ語地名やアイヌ文化関係の資料は概ね公開し、平成21年度から山田氏が関心を持ち支援していた追分節や鯨漁歌関係の資料の公開を始めています。平成23年度からは、山田氏が忍路の鯨漁歌を初めて聴いた頃の録音と思われる資料計3点を新たに公開します。

■山田秀三氏関連の音声資料

センターが、複写により収集した音声資料です（原資料は標津町教育委員会が録音）。標津町における山田秀三氏の講演を記録した資料計3点を公開します。

■久保寺逸彦文庫 音声資料

これまでに引き続き、アイヌ口承文芸やアイヌ民俗調査の資料の公開を進めています。平成23年度からは、旧三石町・旧門別町・穂別町（現・むかわ町）などで採録された民俗調査の資料計10点を新たに公開します。

■山田秀三文庫 文書資料

忍路・塩谷、稚内・留萌、天塩川筋、ほかでの地名調査の記録ファイルなど、計7点を新たに公開します。

利用について

これらは研究センターの閲覧コーナーで視聴や閲覧ができます。音声資料はコンピューターで、映像資料は複製DVDで視聴できます。写真資料・文書資料はプリンターからの紙焼きを閲覧していただいています。

なお、資料の複写は行っておりません。

【資料の一覧】

※音声・映像資料を視聴するときは、「公開用資料番号」で請求してください。
 ※「採録地」は採録当時の市町村名で記してあります。

■ 研究センター音声・映像資料

公開用資料番号	表題	語り手(敬称略)	採録年月日	採録地	資料のあらまし	原資料番号
CC800206	平取町の伝承 24	小川シゲノ	1996(平成8)年11月21日	平取町貫気別	平取町の小川シゲノ氏から、口承文芸その他について聞き取りしたもの。	CC000352
CC800207	平取町の伝承 25	小川シゲノ	2000(平成12)年5月27日	平取町貫気別		CC001028
CC800208	平取町の伝承 26	小川シゲノ	1997(平成9)年2月27日	平取町貫気別		CC000366
CC800209	平取町の伝承 27	小川シゲノ	2000(平成12)年1月29日	平取町貫気別		CC000976
CC800210	平取町の伝承 28	小川シゲノ	2001(平成13)年5月27日	平取町貫気別	平取町の上田トシ氏から、口承文芸や歌謡などを採録したもの。	CC001158
CC800211	平取町の伝承 29-1	上田トシ(同席者:鍋沢キリ)	1998(平成10)年10月1日	平取町去場		CC000801
CC800212	平取町の伝承 29-2	上田トシ(同席者:鍋沢キリ)	1998(平成10)年10月1日	平取町去場		CC000802
CC800213	平取町の伝承 30	上田トシ	1999(平成11)年4月27日	平取町旭		CC000911
CC800214	平取町の伝承 31	上田トシ	1999(平成11)年6月26日	平取町旭	門別町(現・日高町)の松島トミ氏が伝承する歌を採録したもの。	CC000915
CC800215	平取町の伝承 32	上田トシ(同席者:鍋沢キリ)	1999(平成11)年12月17日	平取町去場		CC000965
CC800216	平取町の伝承 33	上田トシ	2002(平成14)年6月20日	平取町旭		CC001199
CC800217	馬方ヤイサマの口演 松島トミさん	松島トミ	1997(平成9)年3月28日	門別町厚賀		CC000370
CC800218	三石地方の伝承 12		1998(平成10)年4月1日	三石町	三石町(現・新ひだか町)の女性(当時80代)から、昔の習俗などについて聞き取りしたもの。	CC001178
CC800219	三石地方の伝承 13-1		1998(平成10)年9月24日	三石町		CC000752
CC800220	三石地方の伝承 13-2		1998(平成10)年9月24日	三石町		CC000753

■ 山田秀三文庫 音声資料

公開用資料番号	表題	語り手(敬称略)	採録年月日	採録地	資料のあらまし	原資料番号
YC800046	忍路の鯨漁歌 5	塚田直吉、柴崎礼三	1965(昭和40)年4月4日	小樽市忍路	小樽市忍路に伝わる鯨漁歌の古調を、同地に在る伝承者から採録したもの。	YC000153
YC800047	忍路の鯨漁歌 6	柴崎礼三、塚田直吉	1965(昭和40)年4月4日	小樽市忍路		YC000156
YC800048	忍路の鯨漁歌 7	柴崎礼三、沼田政夫	1965(昭和40)年4月7日	小樽市忍路		YC000157

■ 山田秀三氏関連の音声資料

公開用資料番号	表題	語り手(敬称略)	採録年月日	採録地	資料のあらまし	原資料番号
CC800221	山田秀三講演「メナシ地方のアイヌ語地名ー標準を起点としてー」1	山田秀三	1987(昭和62)年7月12日	標津町	標津町教育委員会主催による、山田秀三氏の講演会の記録。	CC001406
CC800222	山田秀三講演「メナシ地方のアイヌ語地名ー標準を起点としてー」2	山田秀三	1987(昭和62)年7月12日	標津町		CC001407
CC800223	山田秀三講演「メナシ地方のアイヌ語地名ー標準を起点としてー」3	山田秀三	1987(昭和62)年7月12日	標津町		CC001408

■ 久保寺逸彦文庫 音声資料

公開用資料番号	表題	語り手（敬称略）	採録年月日	採録地	資料のあらまし	原資料番号
KC800088	民俗調査 穂別 1(その1)	大高七朗	1970(昭和45)年7月31日	穂別町似湾	穂別町似湾(現・むかわ町仁和)の大高七朗氏から、通過儀礼や信仰について聞き取りしたもの。	KC000052
KC800089	民俗調査 穂別 1(その2)	大高七朗	1970(昭和45)年7月31日	穂別町似湾		KC000053
KC800090	民俗調査 穂別 2(その1)	大高七朗、(同席者:佐々木義作)	1970(昭和45)年7月31日	穂別町似湾		
KC800091	民俗調査 穂別 2(その2)	大高七朗、(同席者:佐々木義作)	1970(昭和45)年7月31日	穂別町似湾		KC000056
KC800092	民俗調査 門別 1(その1)	鹿戸キヨ	1970(昭和45)年8月2日	門別町幾千世	門別町(現・日高町)の鹿戸キヨ氏から、通過儀礼その他について聞き取りしたもの。	
KC800093	民俗調査 門別 1(その2)	鹿戸キヨ	1970(昭和45)年8月2日	門別町幾千世	KC000057-01	
KC800094	民俗調査 門別 2(その1)	鹿戸キヨ	1970(昭和45)年8月2日	門別町幾千世		
KC800095	民俗調査 門別 2(その2)	鹿戸キヨ	1970(昭和45)年8月2日	門別町幾千世	KC000057-02	
KC800096	民俗調査 門別 3	門別キミ、門別ハル、門別ナヤ	1970(昭和45)年8月3日	門別町庫富		
KC800097	民俗調査 門別 4(その1)	門別キミ、門別ハル、門別ナヤ	1970(昭和45)年8月3日	門別町庫富	KC000058	
KC800098	民俗調査 門別 4(その2)	門別キミ、門別ハル、門別ナヤ	1970(昭和45)年8月3日	門別町庫富		
KC800099	民俗調査 門別 5	門別キミ、門別ハル	1970(昭和45)年8月3日	門別町庫富	KC000038-01	
KC800100	民俗調査 三石 2-1	幌村シマ、村辺カツ	1970(昭和45)年8月8日	三石町	三石町(現・新ひだか町)の幌村シマ氏、村辺カツ氏より、通過儀礼その他について聞き取りしたもの。	KC000036-02
KC800101	民俗調査 三石 2-2(その1)	幌村シマ、村辺カツ	1970(昭和45)年8月8日	三石町		KC000037
KC800102	民俗調査 三石 2-2(その2)	幌村シマ、村辺カツ	1970(昭和45)年8月8日	三石町		
KC800103	民俗調査 サハリン 4(その1)	西平ウメ、西平喜太郎	1969(昭和44)年7月28日	興部町	サハリン東海岸小田原出身の西平ウメ氏、西平喜太郎出身の西平喜太郎氏から、通過儀礼その他について聞き取りしたもの。	KC000015
KC800104	民俗調査 サハリン 4(その2)	西平ウメ、西平喜太郎	1969(昭和44)年7月28日	興部町		

■ 山田秀三文庫 文書資料

資料番号	表題	資料のあらまし
YF0028	稚内ー留萌 51	1976(昭和51)年7月、稚内から日本海沿いに留萌まで調査した時の記録。
YF0153	北海道 天塩川筋	1972(昭和47)年8月の天塩川上流、および1970(昭和45)年9月の豊富ー剣淵川の調査の記録。
YF0431	東北地方地名調	東北地方各県・地域の地名関係の文献やそれらの筆写、自筆のメモなどのファイル。
YF0498-01	忍路・塩谷 55	1980(昭和55)年、小樽市忍路から塩谷へと調査した時の記録。
YF0498-02 ~ 06	[忍路関係地図ほか]	
YF0511	北海道 小樽 II	1963(昭和38)年以降の、小樽各地(小樽内、忍路等)の地名調査の記録。
YF0512	北海道 小樽 I	1962(昭和37)年の、小樽各地(小樽内、忍路等)の地名調査の記録。

フィールドからデスクから

「伝統ポリフォニー国際シンポジウム」に参加して アイヌ音楽と世界のポリフォニー

2010年10月、グルジアの首都トビリシで「第5回伝統ポリフォニー国際シンポジウム The Fifth International Symposium on Traditional Polyphony」が開催されました。シンポジウム事務局からの招へいにより当研究センターの私がこれに参加し、アイヌ音楽についての発表を行いました。以下、私にとって多くのことを学ぶ機会となったこのシンポジウム、およびアイヌ音楽に関連することなどを中心に報告します。



トビリシ市内中心部の「自由広場」。

「伝統ポリフォニー国際シンポジウム」について

このシンポジウムは、1980年代のグルジア（当時はソビエト連邦）で、新進気鋭の民族音楽学者らが、豊かなポリフォニーを伝統的に有するグルジアの聖歌や民謡についての学術的な国際会議を開催した流れから始まっています。何年かおきに計5回の国際会議が行われた後、世界のポリフォニーをテーマとする国際シンポジウムが構想され、2002年の第1回を皮切りに隔年で開催するようになりました。

今回の第5回シンポジウムは、ユネスコ・グルジア文化省・グルジア正教会の後援のもとトビリシ国立音楽院伝統ポリフォニー国際研究センター¹⁾が主催し、トビリシ国立音楽院を会場として10月4～8日の5日間にわたり、研究発表と演奏会を中心に多彩なプログラムが展開しました。研究発表では7つの研究テーマ枠で計31件の発表が行われ、大小さまざまな演奏会にはグルジアをはじめ各国からの伝統音楽の演奏グループが参加していました。



(左) 演奏会場ステージの垂れ幕。左上がグルジア語、右下が英語。
(右) 閉会記念演奏会の終盤、舞台上に全演奏者らが集合する。

ポリフォニー polyphony とは

「多声」「多声音楽」などと訳されることもあります。ここでは、異なる高さの2つ以上の音が同時に響いている状態を持つ音楽の形式を広く指す語として用いています。

シンポジウムへの参加

従来、アジアという広い地域はひとくくりに「基本的に単一の旋律を演奏する『モノフォニー』の音楽文化の地域」とされてきました。しかし、近年の民族音楽学の研究成果によって、アジアにもさまざまなポリフォニーの伝統があることが報告されるようになってきています。この第5回シンポジウムの研究発表でも「アジアの伝統的ポリフォニー」という研究テーマが設けられ、私を含めた7人がそこで発表を行いました。

アイヌの伝統的な音楽にもポリフォニーが存在することは、海外の音楽研究者にも比較的以前から知られています。一方で、アイヌ音楽の詳しい特徴や現在の伝承状況、日本国内での研究状況などについて、海外で得られる情報には限りがあるようです。

こうした状況と当研究センターのこれまでの活動をふまえ、「ポリフォニー」をキーワードとしてアイヌ音楽の情報を発信し広く関心を引き起こすことは、アイヌ文化やその研究の振興につながると同時に、世界のさまざまなポリフォニー文化の研究にとっても有益なことと考えました。また、今後の研究センターでの研究を進める上で、「アイヌ音楽のポリフォニー的なものは、世界のポリフォニー文化を見渡したとき、どういった位置にあるのか」といった比較の視点を持つためにも、このシンポジウムでの知見を活かし研究者らと情報を交換し共有していくことが必要だと思い、アイヌ音楽の概要や現況の報告を中心とした、次のような発表を行いました。「伝統的なアイヌ音楽におけるポリフォニーの諸形式と近年の変化について」

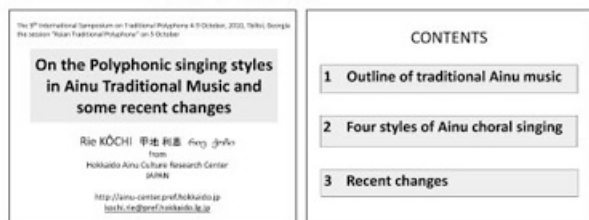
アイヌの音楽の中で、独唱でなく、伝統的に二人以上的人数で歌われる曲は、大きく次の4種類の形式に分類できる、と私は考えます。すなわち、

- ① 同じ一つの旋律を、何拍か後から次々追いかけるように歌い始め、繰り返すもの（輪唱）。

- ② 二つ以上の異なる旋律を同時に歌い、繰り返すもの。
 ③ 同じ一つの旋律を交互に歌い、繰り返すもの。
 ④ 同じ一つの旋律を同時に歌い（斉唱）、繰り返すもの。

このうち、アイヌ語で「ウコウク」などと呼ばれるのは①です。①や②の形式は、アイヌ民族をとりまく周辺の民族（本州以南のいわゆる「和人」も含め）の伝統的な歌には見られない歌唱形式です。

発表では、とくに①のウコウクの特徴を中心に、伝統的なアイヌ音楽の概要と歌の形式について、旭川地方や鶴川地方での伝承曲などの録音を実際に聴いていただきながら、紹介しました。さらに、近年の伝承活動の中で、もともと①のウコウクで歌われていたものが④の斉唱で行うようになった地域もあった一方で、従来のウコウクの形式で伝承を再構築しようとするさまざまな動きが出てきていることなどについても報告しました。



筆者の発表用スライドより 表紙と目次

リトアニアの「スタルティネス」

個人的に最も興味深かったのは、リトアニアの民族音楽学者であるダイヴァ・ラチウナイト-ヴィチニエネさんの「リトアニアとアイヌの声のポリフォニーの類似点」という研究発表でした。

諸民族のポリフォニー研究の第一人者であり、シンポジウムの実行委員の一人でもあるジョゼフ・ジョルダニアさんは、その著書²⁾の中で、輪唱の形式が多く用いられる伝統的な音楽の例として、リトアニア北東部に伝わる「スタルティネス sutartines」³⁾というジャンルの歌と、アイヌの「(ウコウクの形式による) ウボボ (=歌)」を挙げていました。ラチウナイト-ヴィチニエネさんの今回の発表は、ジョルダニアさんのそうした指摘を受けて、スタルティネスとウボボ双方の音楽に特徴的とされる要素について、具体的に比較検討するというものでした。

スタルティネスの、輪唱の構造、円の中心を向いて歌う伝統、動物の鳴き声のオノマトペ（擬音）を歌詞に使うことなど、少なからぬアイヌ音楽との共通項がこれほど離れた遠い国の音楽に見出されるこ

とは新鮮な驚きでした。もちろん一方で、双方で決定的に異なる要素も持っているのも、音楽全体としては全く異文化どうしの音楽になっているのがまた興味深い——と、ラチウナイト-ヴィチニエネさんとも語りあうことができました。

ラチウナイト-ヴィチニエネさんはスタルティネスの歌唱グループ「トリス・ケトゥリオーセ」のリーダーでもあり、同グループもシンポジウムの演奏会に参加していたので、実演を聴くことができました。トリス・ケトゥリオーセの演奏は、スタルティネス本来の神秘的・儀礼的な性格を重んじるもので、演奏会というよりは儀式のような雰囲気が一貫していました。伝統に忠実な演奏であること、その儀礼性や神秘的な雰囲気に観客の側を引きこみ体験させること、そのためにも綿密な研究と連携すること——などに加え、プロフェッショナルな揺るぎない音楽力を基盤にする彼女らの活動のあり方は、現代を生きる諸民族が模索している伝統文化の伝承にとって、方向性の一つを示しているように感じられました。

今後に向けて

今回の私の発表は、アイヌ音楽の概要を海外の研究者に向けて紹介することを主眼としていました。新たな研究成果の発表というよりは、ウコウクという形式による音楽の情報を整理しつつ、いくつかの研究上の問題提起をする、といったものでした。次の機会がこのシンポジウムになるかどうかはわかりませんが、それら提起した問題について検証と考察を重ね、成果をまとめて再度世界に発信できるよう、努力を重ねたいと思います。また今回の経験を機に、アイヌ音楽の持つポリフォニー的な性格が、世界の諸民族の音楽文化とどのように共通するのか、あるいは異質なのか、比較する視点を絶えず刷新していきたいと考えています。末筆ながら、参加にあたりお世話になった皆様に感謝申し上げます。

(研究職員 甲地 利恵)

- 1) <http://www.polyphony.ge/index.php> (グルジア語版/英語版)
- 2) JORDANIA, Joseph "Who asked the first question?" 2006, Ivane Javakhishvili Tbilisi State University, Tbilisi, Georgia (この文献は、上記 1) のホームページからPDFで閲覧することができます)
- 3) このシンポジウムの約1ヶ月後、スタルティネスはユネスコの「世界無形文化遺産」リストに登録されました。

※シンポジウムの予稿集は、刊行されるほか、事務局のホームページで各稿ごとのPDFで掲載されます。

※北海道民族学会の会誌『北海道民族学』第7号(2011年3月刊行予定)にも、より詳しいシンポジウム参加報告が掲載される予定です。

寄贈を受けた資料

(2010年9月～2011年2月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。
資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼を申し上げます。

愛知県公文書館

・愛知県公文書館だより 第15号

アイヌ語地名研究会

・アイヌ語地名研究会会報 第40号

アイヌ語ペンクラブ

・アイヌタイムズ 第52号

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構

・平成22年度「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.4
・財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業案内
平成23年度

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

・青森県史 文化財編 美術工芸

秋葉實(解説・編)

・西蝦夷地 地名附

厚真町教育委員会

・厚幌1遺跡(2)、幌内7遺跡(1)
・幌内5遺跡(1)、富里2遺跡、ニタツナイ遺跡(2)

石川県輪島漆芸美術館

・特別展 輪島塗 美と技の歩み
・石川県輪島漆芸美術館紀要 第5号

石黒克彦

・管恵真澄と近蝦夷

浦添市美術館

・館蔵琉球漆芸

江口カナメ

・歌集 アウタリ

恵庭市教育委員会、恵庭市郷土資料館

・恵庭市郷土資料館年報 16
・北海道恵庭市発掘調査報告書 ユカンボシE2遺跡Ⅱ

大江一造ほか(編)

・歴史のなかの子どもたち2 がんばったはなし

大島建彦ほか(編)

・日本の神仏の辞典

学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻

・記録を守り記憶を伝える 学習院大学アーカイブズ学
専攻開設記念誌

神奈川大学日本常民文化研究所

・民具マンスリー 第43巻第4～10号
・神奈川大学日本常民文化研究所〔要覧〕 2010年度

金沢文圃閣

・文献探索 2007、2008
・文献探索人 2009

上ノ国町教育委員会(編)

・史跡 上之国館跡Ⅲ

樺太アイヌ協会

・カラフトアイヌの稚内移住に関する研究調査 概報1

銀の滴講読会

・遠島タネランケ氏の伝承 アイヌ語虻田方言資料

九州歴史資料館

・九歴だより No.31

銀の滴講読会(編)

・遠島タネランケ氏の伝承 アイヌ語虻田方言資料

熊谷カネ

・岡本惣吉の伝承

高知県牧野記念財団

・高知県立牧野植物園だより No.44
・樹と言葉

弘南堂書店

・北方関係を主にした 弘南堂古書目録 第51号

国立民族学博物館

・月刊みんぱく 第34巻第10号～第35巻第2号
・国立民族学博物館研究報告 35巻第1号、第2号
・民博通信 No.129～131
・MINPAKU Anthropology Newsletter No.29～31
・研究年報2009

札幌市教育委員会

・札幌市文化財調査報告書91 N533遺跡
・札幌市文化財調査報告書92 T71遺跡

札幌市文化資料室

・文化資料室ニュース 第12号

札幌大学

・藻嶺 No.122

サッポロ堂書店

・サッポロ堂古書目34 北海道文献目録2010

札幌法務局ほか

・平成22年度第30回全国中学生人権作文コンテスト 札幌
札幌地方大会入賞作品集

沙流川歴史館

・沙流川歴史館だより No.38、39

澤田和彦、井上紘一(編)

・A Critical Bibliography of Bronislaw Pilsudski
(Preprint) Vol.1、Vol.2

滋賀大学経済学部附属史料館

・平成22年度企画展 古文書と絵図にみる 湖辺のくらし

シクルシイ

・まつろはぬもの : 松岡洋右の密偵となったあるアイヌ
の半生

標茶町郷土館

・標茶町郷土館報告 第22号

世界人権問題研究センター

・グローブ No.63、64

全国歴史利用保存利用機関連絡協議会調査・研究委員会

・資料保存セミナー資料集 (付:既存施設を活用した公
文書館施設に関するアンケート調査結果)

先住民族の10年市民連絡会

・先住民族の10年News 第167号～171号

知多市歴史民俗博物館

・知多市歴史民俗博物館年報 第11号 (平成21年度)

千歳市教育委員会、千歳市総務部総務課文書統計係

・千歳市文化財調査報告書35 末広2遺跡
・『新千歳市史』編さんだより 志古津 12号

知里森舎「知里幸恵 銀のしずく記念館」友の会

・シロカニベ 知里幸恵 銀のしずく記念館 友の会通信
No.1

天理大学附属天理参考館

- ・天理参考館報 第23号

東京都江戸東京博物館

- ・江戸東京博物館NEWS Vol.71、72

東北芸術工科大学東北文化研究センター

- ・東北文化友の会会報 まんだら 第45、46号
- ・季刊東北学 第25、26号

東北大学東北アジア研究センター

- ・東北大学東北アジア研究センターニューズレター CNEAS 第46、47号
- ・ロシア極東の形成：N.I.ドゥビーナ著『プリアムール総督』三部作より 東北アジア アラカルト 第23号
- ・『蒙文総彙』：モンゴル語ローマ字転写配列 東北アジア研究センター叢書 第37号
- ・清初刊教派系宝巻二種の原典と解題：『普履週流五十三参宝巻』と『姚秦三蔵西天取清解論』 東北アジア研究センター叢書 第40号

長野県立歴史館

- ・長野県立歴史館だより Vol.65

にかほ市象潟郷土資料館、象潟町

- ・象潟と北海道 菅江真澄らの記録から
- ・象潟町史 通史編上、下、資料編Ⅰ、Ⅱ

西谷榮治

- ・利尻の語り 先人たちの聞き語りで綴る もうひとつの島の歴史

沼津市明治史料館

- ・沼津市明治史料館通信 通巻102、103号

根室市歴史と自然の資料館

- ・根室市自然と歴史の資料館紀要 第22号
- ・くるまいし 根室市歴史と自然の資料館だより No.25

ノーザンクロス

- ・カイ Vol.9、Vol.10

能代市総務部総務課市史編さん室

- ・能代市史だより 6

反差別国際運動日本委員会

- ・IMADR-JC通信 No.164

日高町門別図書館郷土資料館

- ・日高町埋蔵文化財調査報告書第2輯 ポロベチリ遺跡

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

- ・2008年度 平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

福井県立歴史博物館

- ・赤 古代の赤・江戸の紅花

文化学園図書館

- ・図書館だより No.151

北海学園大学

- ・北海学園大学 学園論集 第145、146号

北海道遺産推進協議会

- ・北海道遺産だより Vol.4

北海道開拓記念館

- ・北海道開拓記念館だより Vol.40 No.2~4

北海道開発協会

- ・開発こうほう No.568

北海道環境財団

- ・2009年度活動報告書

北海道教職員組合

- ・北教 号外

北海道ジェイ・アール・エージェンシー

- ・The JR Hokkaido No.273

北海道大学、北海道大学埋蔵文化財調査室

- ・リテラポプリ 42号
- ・北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第9号

北海道文化財団

- ・北のとびら No.86、87

北海道文化財保護協会

- ・文化情報 第322、323号

北海道埋蔵文化財センター

- ・森町石倉1遺跡(2)
- ・北斗市 矢不來8遺跡(3) 矢不來9遺跡(2) 矢不來10遺跡(2) 矢不來11遺跡(3)

北海道立衛生研究所

- ・北海道立衛生研究所報 No.60
- ・平成21年度 北海道立衛生研究所事業年報

北海道立総合研究機構

- ・北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所 2010-2011

北海道立北方民族博物館

- ・第25回特別展 トナカイのパーカとアザラシのブーツ：北方の衣文化をさぐる
- ・平成21年度年報
- ・北方民族博物館だより No.78、79

北海道立文書館

- ・赤れんが 北海道立文書館報 No.46

北国新聞社

- ・漆はジャパンである

宮崎県総合博物館

- ・森の通信 第49号

ヤイユーカーラの森

- ・Yay Yukar Park 68

山川力

- ・北限の石仏たち

和合会

- ・八重垣 第43、44号

【海外】**中国社会科学院**

- ・世界民族 2009年第1期、第3期~第6期、2010年第3期~第6期
- ・民族研究 2009年第3期~第6期、2010年第1期~第3期、第6期



センターのホームページでは、寄贈を受けた資料のほか、購入した資料などについてもお知らせしています。

行事など

■平成23年度企画展

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から」

2ページでもお知らせしたとおり、平成23年度の企画展を、稚内市と名寄市で、次の日程で開催します。

●稚内市①

会場：稚内市立図書館(稚内市大黒4丁目1-1)

期間：9月16日(金)～10月16日(日)

火～金 10:00～20:00

土・日 10:00～18:00

休館：月曜及び9月29日(木)

入場無料

●稚内市②

会場：稚内市北方記念館(稚内市ヤマウツカナイ)

期間：9月17日(土)～10月30日(日)

9:00～21:00(10月から～17:00)

休館：月曜(但し10月10日は開館)及び10月11日(火)

北方記念館の入館料(※)が必要

※一般・大学生・高校生 ¥400(団体¥320)

小学生・中学生 ¥200(団体¥160)

●名寄市

会場：名寄市北国博物館(名寄市緑丘222)

期間：11月19日(土)～12月25日(日)

9:00～17:00 月曜休館

入場無料(※博物館常設展は有料です)

■講演会(企画展関連事業)

企画展の会期中に、講演会を次の通り開催します。演題など詳細は、追って当センターのホームページ等でお知らせします。

●稚内市

会場：稚内市立図書館 視聴覚ホール

日時：9月17日(土) ※予定

講師：

佐々木 利和氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授)

佐藤 知己氏(北海道大学大学院教授)

本田 優子氏(札幌大学教授)

●名寄市

会場：名寄市北国博物館

日時：11月19日(土) ※予定

講師：

田村 将人氏(北海道開拓記念館学芸員)

北原 次郎太氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授)

平成22年度後半の動き

■人事短信

11月30日付

(退職) 研究職員 貝澤 太一

3月31日付

(定年退職) 副所長 下斗米 哲明

(定年退職) 総務課長 島田 和子

■行事・研修等

・第5回伝統ポリフォニー国際シンポジウム(グルジア トビリシ市・トビリシ国立音楽院/10月/発表：甲地)

・「秋田県にかほ市象潟郷土資料館のアイヌ文化資料に関する研究会」(札幌市・北海道大学/10月/参加：古原、小川)

・平成22年度文書等保存利用機関・団体等職員研修会(札幌市・赤れんが庁舎/11月/参加：小川)

・平成22年度アイヌ民俗文化財専門職員等研修会(札幌市・道庁別館/12月/参加：小川)

・「大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究(研究代表：北海道大学農学部 加藤克)」(札幌市・北海道大学/1月/参加：古原)

・平成22年度アイヌ民族文化研究センター運営協議会(札幌市・当研究センター会議室/2月)

センターの刊行物

平成22年9月から平成23年3月までに、この『センターだより』34号のほか、次の刊行物を発行しました。

『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』17号

(以下は表題と執筆者名です)

[論文] アイヌ語千歳方言における推量の助動詞nankorの意味について

佐藤 知己

[調査報告] 和人の散文説話—継母から殺されかけた姉を救った妹—

大谷 洋一

[研究ノート] アイヌの魚皮衣—ロシアの博物館所蔵のアイヌコレクションについて—

荻原 眞子・古原 敏弘

[論文] 北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける採録資料の公開について

アイヌ民族文化研究センター研究課

・『研究紀要』は、北海道行政情報センター(道庁別館3F/011-231-4111内線22-389、または011-241-7979)で有償頒布しています。

・『センターだより』は、当センターのホームページでもご覧いただけます。

◎これまでの『研究紀要』1～16号掲載の論文等のうち、一部は当センターのホームページからもご覧いただけるようになりました。どうぞご利用ください。

アイヌ民族文化研究センターだより No.34

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2011年3月25日

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地

緑苑ビル1F(北海道庁緑苑ビル庁舎)

電話 011-272-8801(代) FAX 011-272-8850

月～金/9:00～17:00(土・日・祝日/休)

URL <http://ainu-center.pref.hokkaido.jp>

E-mail hacrc.1@pref.hokkaido.lg.jp

この広報誌は、環境に配慮した用紙を使用しています(古紙配合率100%、白色度70%)。